

「鍵かけた？」 身近なセーフコミュニティ 活動にご協力を！

セーフコミュニティとは

「ケガやそれを引き起こす事故などは偶然に起こるものではなく、予防することができ」という理念のもと、事故やケガのデータを分析し、地域・警察・消防・行政などが連携して改善のための取り組みを行うことで市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを進めることです。

現在、市では7つの対策委員会を設置し、皆さんのご協力をいただきながら、「安全・安心なまち」を目指して活動しています。

また、身近な生活の中にも簡単にできるセーフコミュニティ活動があり、一人ひとりの心がけや実践が「安全で安心なまち」へつながっていきます。

「鍵かけ運動」の推進

市内における犯罪発生状況は、昨年度に比べ、刑法犯認知件数が増加しており、中でも侵入窃盗、自転車盗の増加が顕著です。こうした被害を防止するため、犯罪の防止対策委員会では、犯罪の被害を抑止するために「鍵かけ運動」を推進しています。



自転車には2重ロックを！

閤危機管理課 ☎ 22-2206

「鍵かけ運動」とは、近所へゴミ捨てに行くなどのちょっとした外出でも自宅に鍵をかけることを習慣にしてみよう、侵入盗を防ぐというものです。

皆さんもぜひ、身近な方に「自宅の鍵かけた？」と声掛けをお願いします。

また、侵入犯の防止には、窓ガラスに防犯フィルムを張るといった対策も有効です。

消費生活センターからのお知らせ

無料で点検してもらったら
高額な工事契約に！

「屋根工事の点検商法」に関する相談が全国的に増えています。「近所で始まる工事の挨拶に来た」「向こうから見たらお宅の屋根瓦がずれているのが見えた」などと言って突然訪問し、「無料で点検してやる」と屋根に上り、点検後「このままだと雨漏りする」「強風で瓦が飛んで近所に迷惑がかかる」等と不安をあおり、工事を勧めるのが典型的な手口です。

事例1 「近くで工事をしている者です。屋根瓦がずれているのが見えました。一緒に屋根に上がって見てください。私だけで見ると私が壊したとか、他の家の屋根だと言われるのが嫌だから」と言われ、はしごで途中まで登って見た。事業者はスマホで動画を撮り、テレビに映して見せてくれた。「今なら資材の持ち合わせもあるので割引しますよ」と言うのでその場で約160万円の工事契約をした。

事例2 「近くの現場に瓦を搬入している者です。お宅の屋根瓦が浮いているのが見えました。点検しておきましょうか？ 屋根裏が心配です」と言われたので応じると「木が腐ってますね。雨漏りしますよ」と言い、200万円の見

積書を置いて帰った。心配で懇意にしている工務店に見てもらったところ、「釘を途中まで抜いて瓦を浮かせ、雨漏りするように細工してある。野地板も防水シートも全く問題ない」と言われた。

消費者へのアドバイス

- 点検後、不安がらせ、契約を急がせるのが特徴です。屋根には上がらせないようにしましょう。
- 「無料で点検してやる」と訪問してきた際、話を聞いてしまうと事業者のペースにはまってしまう。事例のようなセールストークが一つでも出たら、話を聞かないでハッキリと断りましょう。

・勧められてもその場で契約しないですぐ誰かに相談する、心配なら地元の事業者者に相談してみるようにしましょう。突然の訪問で契約した場合、クーリング・オフができます。



出典：消費者庁イラスト集より

秩父市消費生活センター

毎週月・金曜日（祝日はお休み）
午前9時～正午、午後1時～4時
☎ 25-5200